

◎地域清掃活動 全学年

全学年児童が学校を中心とした大林小学区を分担して、清掃活動に取り組んでいる。日頃、通学路を通ったり、遊んだりしている場所を、自らの手できれいにすることを通して、自分たちの住む大林をきれいに、住みよい場所として維持しようとしている。ホタルを中心とした生き物の生育環境の整備も意識しながら、行った。



◎大林地域散策コース巡り 3年生

1年間に実施した地域に関わる学習活動は、大林社会福祉協議会や長寿会の方々などの地域の方々に支援をしていただき、行った。



○終わりに

「故郷『大林』をホタルの飛び交う自然豊かな町として大切にしよう。」「そのために、私たちは何ができるか、何をするか。」と考え、ホタルプロジェクトの学習活動が展開されてきた。児童の実態に即し、自分で見いだした課題を自分なりに考えたり、グループでまとめたりしながら、一つの目標に向かって学校の児童全体が取り組むことのできるテーマであった。学年や児童の発達段階に応じて課題を設定することができ、その課題を様々な手立てで解決し、自分たちなりの結論を導いてまとめに達することができたと考える。

「ホタルプロジェクト」は、ホタルの羽化時期を選んで行われる6月始めの「ホタルのタベ」が活動の一つのまとめの場となる。同時に採卵や幼虫の飼育活動も始まる。また、大麦栽培は、11月頃に播種し、6月頃に刈り取り、その後乾燥、脱穀と続き、前年度収穫した大麦の茎でホタルかごを作ること、大麦でホタルのタベの来場者に配る麦茶づくりを行う。コンニャクイモ栽培は、1月末のもちつき大会で作られる豚汁の食材として、地域と連携し児童が栽培とコンニャクづくりに取り組んだ。



どの学習素材も常に次の見通しと目的をもって行われ、それぞれの場で工夫や課題解決のための取組が行われる。このように学びが循環し継続し、深化発展することが期待できる。そして、児童が地域でよりよい暮らし方を追究する取組が伝統文化や地域の人々と結びつき、豊かな学びとなっている。

「課題解決型の学習」であり、児童の意識、助言者である教師の高い意識が必要である場面がある。豊かな学びの活動に高めるためには、指導者の ESD や自然保護に関わる意識を高めていく必要があり、これからの課題である。また、児童の学習への動機付けや今後の発展を願うには、児童の主体的な学びへと転換させていくことが必要不可欠である。

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 学校行事・地域行事)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ① ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

主に1, 2年生は、生活科、3年生以上は総合的な学習の年間計画に位置づけている。児童が本地域に学び、育つ中で疑問に感じたことを大切にしながら重ねてきた「ホタルプロジェクト」の中に組み込む工夫している。

また、発表や文章の作成など国語科の単元と教科横断的に位置づけることを年間計画の中で各学年が考え、具体的な取組を進めている。

- ② 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

学習活動を集約する公務分掌（教務部）に担当者を位置づけ、全学年の取組が計画的に進むよう年間計画を見直したり、提示した入りしている。担当者が学習活動全体を調整していることから、スムーズな学習活動を行うことができている。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

「『ホタルプロジェクト』にESDの視点を取り入れプロジェクト型の学習の実践を充実させ課題解決能力を高める。」として、地域と連携した学習活動を効果的に取り入れることを学校全体の目標としている。取組評価の方法は、児童の記録物等からの読み取り、実践の回数、教科横断的な学習計画による取組の回数の変移とした。児童は主体的な学びにつながる疑問や改善策を考え取り組む姿が見られるようになり、地域との連携にチャレンジし取り組む回数も増えている。課題としては内容の充実度を上げることである。

- ④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

ホタルプロジェクトは、本校の取組として日常化している。その取組の様子を学校ホームページに公開している。他校や地域、保護者から時折、感想が学校に伝わってくる。おおむね、励みとなるものであり、今後の取組の活力としていきたい。

- ⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

特に地域の各団体との連携を密にして学習活動を計画実施した。教育関係団体との連携はほとんど行っていない。

⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

他のユネスコスクールとの交流やネットワーク形成は行っていない。

⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（２００字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

児童の課題を見出す場面や解決に向かう姿勢などに主体性が見られ、力が伸びている。また、教員においては、課題を児童から見出し設定すること、教科横断的な学習計画の視点を持つことからカリキュラムに対しする視点が広がり、指導力の向上につながっている。

児童の主体的な学びをどのように行うか、これから求められる資質能力の育成に向けて、学校での児童の学びについて理解が深まる場面が多くあった。

（３）平成 30 年度の活動計画（２００～４００字程度）

本校のプロジェクト方の学習は、年度ごとに終了する火プログラムではない。児童は、継続して課題に取り組み、学年が上がっていけば、それに応じた取組を行う。したがって、現時点では、今年度の取組を継続し、生じる課題をまた解決したり、学びを深めたりしていくことが、次年度につながって行うことである。

１年を通じてみれば、６月始めたの「ホタルのタベ」が一つの区切りとなっている感がある。会の全体像も含め、新年度の方角性も振り返りの時間を持ちながら、検討し取組を進めていく。

また、次年度においても学校経営目標の一つに位置づけ、学校全体をあげて取組を推進していく。